

山形県は福島と並んで果物王国として知られていますが、桜や紅花、あやめや菊など、四季折々の花々が私たちの目を楽しませてくれる地域でもあります。数ある花の中でも、一際華やかで豪華なのがダリアです。県南の川西町にある「やまがた川西ダリヤ園」では、8月から11月上旬まで650種、約10万本のダリアの花が咲き誇ります。華やかな美しさだけでなく、古くからの歴史がある川西町のダリアを、ぜひ見に出かけてみてください。

川西町の豊かな自然と地元の人々の心意気がつくったダリアの園



やまがた川西ダリヤ園
【山形県川西町】



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

川西町は昭和30年に1町5村が合併して誕生しました。広大な田園となだらかな丘陵地が広がり、昔も今も米どころ・酒どころとして知られています。現在の川西町役場周辺（小松宿）は、新潟から続く街道の宿場町として古くから栄えていました。明治初期にはイギリスの女性旅行家、イザベラ・バードも滞在し、眼前に広がる米沢平野を見て「実り豊かに微笑する大地、東洋のアルカディア（桃源郷）」と賞賛しています。大正・昭和になって米坂線（鉄道）が開通した後、小松宿周辺は新潟と仙台を繋ぐ交通の要衝として栄え、裕福な旦那衆が数多くいました。「ダリアが最初に日本へ入ってきたのは江戸時代でした。川西町には、昭和初期に広まり、地元の旦那衆が競って育てていたそうです。その頃は球根が1つ3000円、今なら20万円程という高価なものもありました。そのため旦那衆も庭の奥で大切に育てていて、気軽に見られるものではなかったんです」と話すのは、川西町産業振興課の内谷新悟さん。貴重なダ

リアが川西町のシンボルとして多くの人々に紹介されるようになったのは、冒頭の町村合併がきっかけでした。「旦那衆の声がけもあり、町では昭和35年にダリヤ園をつくることになりました。私は昭和58年に役場に入り、ダリヤ園を担当することになりました。農業高校卒業ですが、ダリアの栽培は難しくて苦労しました」と内谷さん。ダリアの原産地はメキシコの高地。暑さや病気に弱く、手間のかかる花です。そこで内谷さんは懸命に勉強し、他の地域の栽培者や研究者と交流を深めるなど努力を重ね、今の見事な「やまがた川西ダリヤ園」を完成に導きました。そんな内谷さんにダリアの魅力を聞きました。

「花色、花型、大きさなど種類が豊富な特徴ですが、なんといっても華やかが一番。日本のダリアならではの特徴である『かすれ』と『ねじれ』も味わい深いものがありますよ」。ダリヤ園には川西町で誕生した品種もあります。ぜひ足を運んで、川西町の人々が育んだダリアの魅力を感じてください。



やまがた川西ダリヤ園
山形県東置賜郡川西町上小松5095-11
TEL.0238-42-6645
(川西町役場産業振興課商工観光グループ)
営業時間／9:00～18:00(10月から日没で閉園)
入園料／大人540円、小学生210円
開園期間／8月1日～11月上旬(期間中無休)



⑧



⑨



⑩

- ① 幾重にも重なる深紅の花弁が美しい日本最大のダリア「宇宙」。
- ②③ 昨年川西町で誕生した新品種。右側が「川西パープル」、左側が「星のセレナーデ」。
- ④ 青空に映える早咲きのダリア「ホワイトウェディング」。
- ⑤ 今年、川西町でもホッケー競技が開催されるインターハイの記念ダリア「魅せる青春、夢舞台」。
- ⑥ 4ヘクタールの敷地いっぱい咲き誇るダリアの数々。園内には子どもに人気の遊具もあります。
- ⑦ 期間中、各種イベントを随時開催。写真は昨年に引き続き今年も10月下旬に開催されるイベント「ダリアのさんぼみち」。芝生の上にダリアで描いた絵が点在し、記念撮影にオススメです。
- ⑧ ダリアのことを知り尽くした内谷新悟さん。
- ⑨ 毎年開催される「東北ダリヤ名花展」。今年は9月23日(祝・土)～25日(月)に開催。
- ⑩ 園内では紅大豆ソフトクリームや牛すじと玉こんにゃくが一緒になった「牛こん」など、川西町グルメも味わえます。

※「かすれ」は花びらに模様が入るもの。「ねじれ」は花びらがねじれたような形になったもの。